

暑熱 飼料高騰

あらためて、飼養管理を点検しましょう!

乳房炎の予防と早期発見

高温多湿となる夏場は、乳質の低下とともに、乳房炎の発症に注意しましょう。

1 乳房炎の予防

牛床の敷料交換や除ふんの励行、定期的な搾乳機器の点検、搾乳前後のディッピングの実施等

2 乳房炎の早期発見

毎日の搾乳時における乳房や乳汁の状態、バルク乳の体細胞数の変化等のチェック、牛群検定データの活用等

体細胞数の増加による損失

体細胞数	乳量損失	年間損失額
30~50万	4%	約100万円/戸
50~100万	8%	約200万円/戸

(注)年間損失額は、経産牛40頭、1頭当たり乳量7,700kg、乳価82円で計算。

暑熱対策の徹底

さらにできることはないか、点検しましょう。

- 1 牛舎内の温度上昇の抑制と湿気・アンモニアの排出**
畜舎内の換気、屋根の断熱・冷却、直射日光の遮断、散水等
- 2 牛体からの放熱の促進**
毛刈り、牛体への送風、夜間の外気利用等
- 3 飼料摂取量の減少防止と不足栄養分の補給**
十分な飲水量の確保、消化率の高い粗飼料の給与、飼料の変敗防止、ミネラルの補給等
- 4 カウコンフォート(牛の快適性)の改善**
定期的な削蹄、牛床のクッション性の確保等

飼料給与の適正化・効率化

- 都府県の粗飼料給与率は38%にまで低下。濃厚飼料給与量の点検を忘れずに。

個体(または群)の能力等に応じた適正な栄養バランスの飼料を調製し、過不足なく給与する等。

自給飼料の確保

- 都府県の飼料自給率は15%まで低下(20年で半減)。個人・地域で、自給飼料の確保について検討しましょう。

濃厚飼料の多給で、牛に負担をかけ、繁殖成績や乳質等に影響していませんか。改善すれば、無駄が省けるだけでなく、分娩間隔や廃用産次、乳質の改善も期待できます。